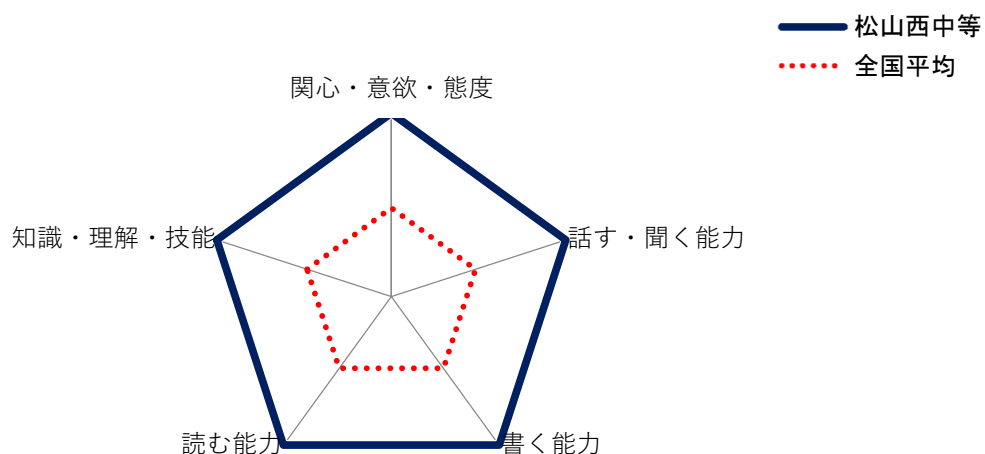


令和元年度 全国学力・学習状況調査 (各教科観点別の特徴) 結果

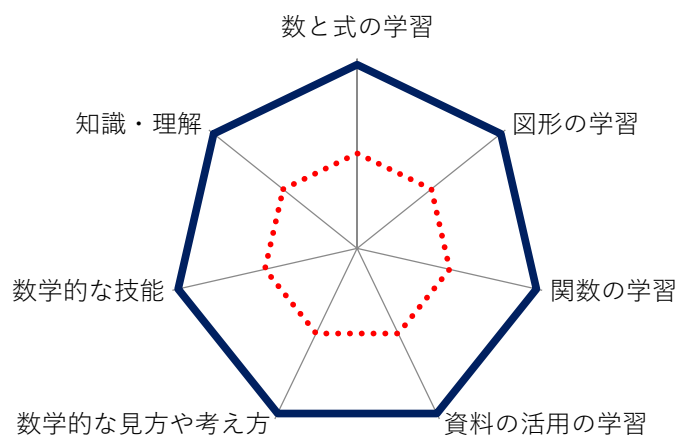
松山西中等教育学校

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

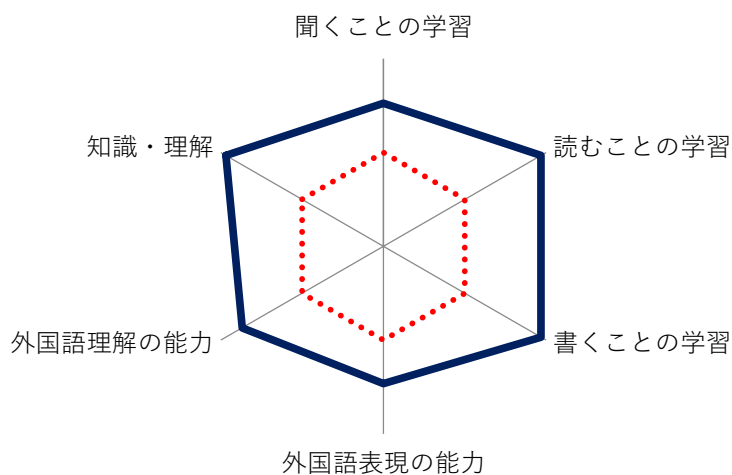
【国語】



【数学】



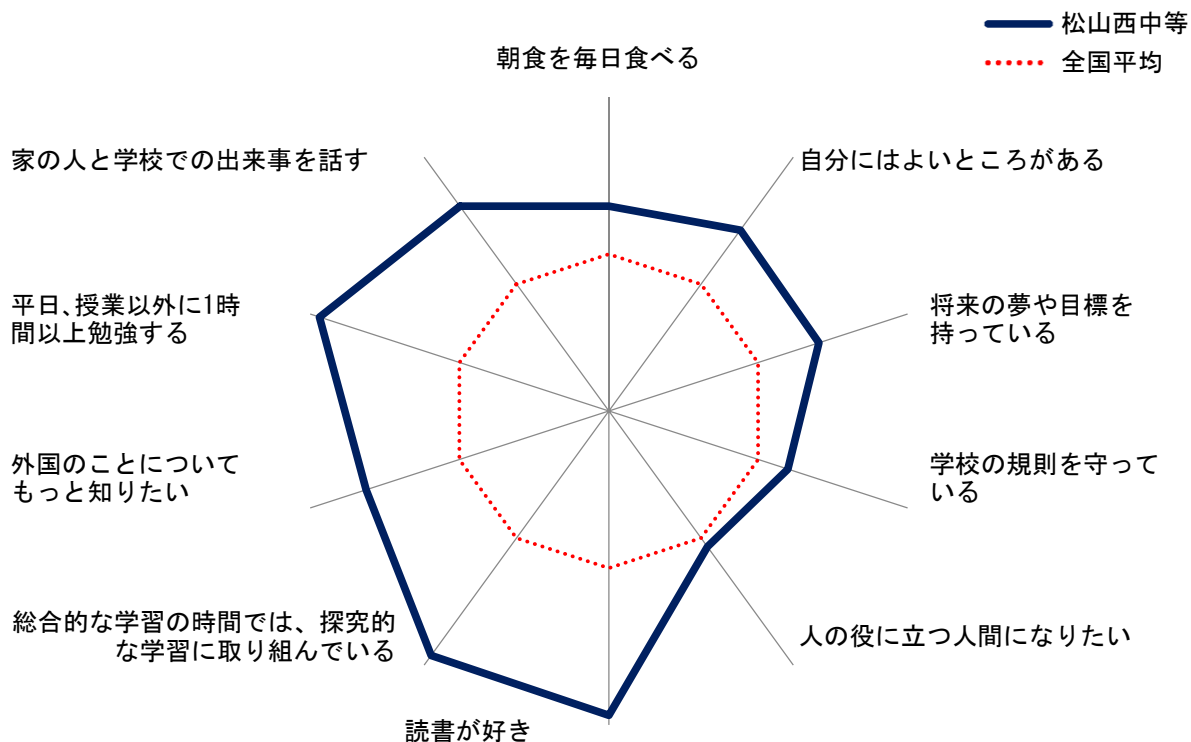
【英語】



令和元年度 全国学力・学習状況調査 (学習や生活の状況) 結果

松山西中等教育学校

○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

【国語】

今年度より調査問題の分類が変わっているので、昨年度までとの単純比較は難しいですが、本校の平均正答率は93%と全国平均(73%)、愛媛県平均(74%)を大きく上回り、良好な結果となっています。本校は、短答式や記述式の問題において無解答率0%と、学習に臨む生徒の「関心・意欲・態度」が極めて高いことがうかがえます。また、全ての領域で正答率が90%を超えており、バランス良く学習ができていると言えます。特に「書くこと」の正答率は98%と非常に高くなっています。これらは普段の授業の中で、「読むこと」によって得た知識を使って「書くこと」に取り組んだり、「聞くこと」によって得た知識を使って「話すこと」に取り組んだりした実践の成果であると考えます。今後も「生徒がインプットしたものを生徒にアウトプットしていく」授業を構築していきます。

問題別に分析すると、1四「封筒の書き方を理解して書く」の正答率が86%(全国平均57%)、2三「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」の正答率が85%(全国平均60%)と、相対的にはやや低い傾向にあります。この問題は、「目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力」や、「未解決の部分に気づき解決策を考える力」を測るものでした。これらの力は、情報化が急速に進展する現代社会において、特に必要とされるものであり、中高一貫教育校である本校としては、最も生徒の力を伸ばさなければならない分野です。

生徒にとって、手紙やはがきを使う場面は決して多くはありませんので、今後は授業中での指導を強化していきます。あわせて、これまで以上に「主体的・対話的で深い学び」を積極的に行い、「筋道を立てて考えていく」論理的思考力を養い、日常生活の様々な場面で活用できる実践知を培っていきます。さらに、引き続き「話すこと・聞くこと」も含めた表現活動を重視して、「プレゼンテーション能力」の向上を目指します。本校は「伝え合う力」の育成を主題とし、教育活動を行っています。今後とも、これを「深い学び」と捉える授業を行っていこうと考えています。

【 数 学 】

「知識・理解」に関する問題で、全国平均正答率と本校の正答率の調査結果と比較すると、20%上回っています。学習指導要領に示されている領域ごとの結果をみても、全領域において全国平均を約25ポイント程度上回っており、特に関数の分野に関しては、40ポイント近く上回っています。ただ、本校の設問別正答率をみると、四則演算に関する問題や確率の問題、図形に関する問題の正答率が他の問題に比べてやや低い結果となっています。今後、図形を読み取る力、論理的記述力を身に付けさせる必要があります。

「数学的な見方や考え方」に関する問題では、全国平均正答率と本校の正答率の調査結果と比較すると、30ポイント上回っています。各領域の結果をみても、特に図形や数と式の領域では全国平均を約32ポイント上回っています。一方で、与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現・処理する問題や、問題を解決する方法を数学的に説明する問題の正答率が低い結果となっています。今後、解法を導くための過程を、適切な語句などを使って説明する力を身に付けさせる必要があります。

今後の取組として、更なる授業改善とともに、教材・教具の工夫はもちろん、ICT機器の活用を促進し、図形や表を読み取る力や表現する力を養いたいと考えています。また、個別の添削指導や考查問題の工夫を通して、記述力の強化に努めていきます。今後も「日々の課題」、「週末課題」などを通じて基礎学力の定着を図るとともに、サタデー・サポートやステップアップゼミ等を利用して、応用力の向上に努めていきたいと考えています。

【 英 語 】

平均正答率についてですが、全国平均が56%、愛媛県平均が55%に対し、本校の平均は75%と、愛媛県平均、全国平均を大きく上回り、良好な結果でした。学習指導要領の領域ごとの結果をみても、「読むこと」、「書くこと」においては、全国平均を大きく上回っています。特に、「書くこと」における問題「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の否定文を正確に書く」では、全国平均を約40ポイント上回っています。ただ、「2つのヒストグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く」問題では、全国平均を約8ポイント上回っているものの、まだまだ課題が多く、今後授業などを通して、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く練習をする必要があります。

今年から導入された「話すこと」調査の結果は、全国でPC機器の不具合等があったため、英語の集計から除かれています。本校の結果について分析したところ、相手の発話の内容を踏まえて会話を継続させていく問題において、アウトプットの力に課題が残ることが分かりました。今後とも、新学習指導要領に明記されている「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」ため、アウトプットを重視した指導に努めていきたいと考えています。

【生徒質問紙調査】

生徒質問紙調査の項目のうち、家庭生活に関する内容では、おおむね全国平均よりやや高い数値が出ており、本校生徒が基本的な生活習慣を確立し、望ましい家庭生活を送っている様子が数値からも裏付けされています。「自分にはよいところがある」の質問については、例年本校生徒の数値は低く出る傾向がありましたが、今回の調査では全国平均を6ポイント上回っており、生徒の自己肯定感が高まった結果と好意的に受け止めています。「学校の規則を守っている」と「人の役に立つ人間になりたい」の値については、本校の生徒で「学校の規則を守っている」と答えたものは99%（全国平均96%）、「人の役に立つ人間になりたい」と考えているものは95%（全国平均94%）であり、これは全国平均とともに高い結果を示しています。

学びの分野においては、「読書が好き」や「総合的な学習の時間では、探究的な学習に取り組んでいる」の質問で全国平均と比較して際立って高い数値となっており、本校生の知的好奇心や探究心の高さがうかがえます。後期課程でも引き続き、良質な「総合的な探究の時間」を実施し、生徒の知的関心に添っていきたいと思っています。

また、今年度の生徒の特徴として、英語に対する関心の高さが挙げられます。「外国のことについてももっと知りたい」「将来、英語を使う生活をしたり職業に就いたりしたい」などの数値が特に高く、英語の勉強が好きな生徒が多いという結果が出ました。このことについても、後期課程で更に英語の学力を伸ばして行けるよう、効果的な授業方法等の研究を進めます。

さらには学習のみならず、地域や地元へ貢献できるリーダーやフォロワーを育成することも本校にとって重要な教育活動であると考えます。